

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達サポートセンター つむぎ		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達障がいの特化した専門施設です。	発達障がいについて長年取り組んでいる代表理事兼児童発達支援管理責任者や、WISC-V・K-ABC IIといった知能検査を行うことが出来る理事がおります。また、学会や研修会等に参加することで研鑽を積み、そこで得た知見を事業所にて職員全体で共有しております。専門知識を持つ職員が揃っております。	現在、設立より10年になりますが、10年勤続の職員が半数以上在籍しており、また職員全員が資格保有者です。今後も学会や研修会等に参加することで研鑽を積み、最新の情報と実践方法を取り入れ、職員全員の資質向上を目指して、ご利用者様と保護者様に還元出来るよう努めます。

2	SST（ソーシャルスキルトレーニング）や工作、クッキング、個別療育と幅広い療育を取り入れております。	ご利用者様お一人おひとりの現状やニーズに合わせたソーシャルスキル・トレーニング（SST）、および療育プログラムを行っております。対人関係や感情のコントロール、感覚過敏などの問題に対して解決方法を見出し、適切に振る舞えるトレーニングを行うことで、社会への自立や適応能力を高められるようサポートを行っております。また手先を使った作業やクッキングなど、将来の自立に向けて役立つ活動も多数取り入れております。	定期的に外部研修会の参加の機会を設け、療育技術の向上に努め、職員全体の資質向上に努めます。
3	システムズアプローチ（家族療法）の考えを用いて、ご利用者様だけではなく保護者様の心理面も大切にさせて頂いております。また必要と思われる社会的資源を提案もさせていただきます。	代表理事兼児童発達支援管理責任者が大学院で臨床心理学を学び、システムズアプローチ（家族療法）の考えで発達障がいのお子様やの保護者様をお手伝いさせて頂いた経験を生かし、ご利用者様や保護者様に対応させて頂いております。また精神科勤務、スクールカウンセラーの職責に就いていた時期もあるため、薬のお話や学校との繋がり、さらに子ども食堂との関係も構築させて頂いております。	高校を卒業した後も、ご利用者様たちのご相談やコミュニティの場として13年前から代表理事が主催している、発達障害がある大人の当事者会『北摂ほっとサロン』をご案内させて頂いております。同じ悩みを持つ先輩当事者様からの共感やアドバイスがもらえる場合は、大変貴重だと考えております。また、茨木市様にもご協力して頂いているので、安心してお越し頂けます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「保護者の会」の活動がない。	今現在は、個人情報観点から保護者の会は開催しておりません。また保護者様の中には希望されておられない方もおられます。その為、必要な方には個別にて対応させて頂いております。	ご利用者様が地域で適切な支援を受けられるように、また保護者様が安心して子育てを行って頂ける仕組みを考えさせて頂いておりましたが、この度、連携を取らせて頂いております「子ども食堂」様において、障害がある子どもを育てる保護者の会が立ち上がることをお聞きしました。今後そちらと連携を取らせて頂くことで、更に広い保護者様のご心配やご不安に対応させて頂きたいと考えております。